
夢幻

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢幻

【Nコード】

N4626K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

誰もいない野原に迷い込んだ。

青いテーブルクロスに牛乳をこぼしたような空が頭上に広がっている。

どこまでも続く夢幻の野原。

何かに疲れたように体を横たえる。

眩しい光が目を、体を、心をすみずみまで照らしつくす。

目の前を一匹のテントウ虫が横切る。

捕まえようと思って手を振り回すが、指の間からこぼれて逃げていく。

あきらめて流れる雲を眺めていると、左から羊が歩いてきた。
草をはんでいる。

近くまで来て、間違えて頬にかじりついてくる。

羊は草で無いと分かると、すぐに去って行った。

頬からは絵の具のような真っ赤な血がとろんととろんとマグマのように流れ出す。

ズキズキと痛みだした。

ポケットからハンカチを出して頬に当てて止血する。

ハンカチが肌の一部になったような錯覚がする。

血はハンカチから流れ出し、野原に滴った。

空がじわじわ赤くなる。

血の色みたいになって笑っている。

夕陽も、巨大な出来モノにしか思えず、気持ち悪くなって目を瞑る。

しばらくして目を開けると夜になっていた。

星も月も音もない静かな夜だ。

きつと世界の終わりの日はこんな風だろうなと思うと、涙が止まら

なくなった。

ここには誰もいないようだから、思いつきり無様に泣いた。横になったまま泣いていたので、鼻水がのどに逆流してきて気味が悪い。

立ちあがって、彷徨いながら泣く。

すると、足元に波が打ち寄せてきた。

灰色の海が、それほど無いはずの光を反射してキラキラ輝いている。その輝きが広がって、体を包んだ。

目が覚めると、体育館のマットの上で倒れていた。

授業中に頭を打って気絶していたらしい。

ぼんやりする意識の中でチャイムの音だけがはっきり聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4626k/>

夢幻

2010年10月28日07時57分発行